



平成 20 年 4 月 30 日

報道関係各位

株式会社 UMN ファーマ

## 新型インフルエンザワクチン製造工場の建設のため 秋田県秋田市に工場用地を取得

株式会社 UMN ファーマ(本社:秋田県秋田市、社長:金指秀一、資本金:18 億 7,376 万 2 千円)は、秋田市御所野湯本の秋田新都市工業団地の土地約 13,000 m<sup>2</sup>を秋田県より取得しました。今回の用地取得は、当社が 6 月より第 I/II 相臨床試験を開始する新型インフルエンザワクチン“UMN-0501”の製造拠点となる工場の建設を目的としており、2010 年の稼働を目指して、総投資額 20 億円の計画で事業を進めてまいります。

“UMN-0501”は、孵化鶏卵の代わりに、細胞培養によって産生された「リコンビナントタンパク(※)」を使用する新型インフルエンザワクチンです。孵化鶏卵を用いて製造する既存のワクチンと比較すると短期間で的大量生産が可能であるため、当社では今回の工場の建設によって、年間 1,000 万人分の新型インフルエンザワクチンの生産を目指します。また、今回取得した用地は、年間 1 億人分のワクチン製造を可能とする敷地面積を有することから、社会的な需要や当社の資金調達の進捗を鑑みつつ、将来の増設を検討していく予定です。

当社代表取締役社長 金指秀一は、次のように述べております。「新型インフルエンザの世界的大流行が懸念される中、当社の開発するワクチンは短期間に大量に製造できるメリットを持っており、一刻も早く UMN-0501 の安定供給をできるよう着実に臨床試験と工場建設を進めていく所存です。」

### 《ご参考:新型インフルエンザについて》

新型インフルエンザとは、動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスがヒトに感染し体内で増殖することが出来るように変異して、ヒトからヒトに感染するようになったウイルス性の疾患を指します。この新型インフルエンザは、人間界にとっては未知のウイルスで、人類のほとんどが免疫を持っていません。そのため、容易にヒトからヒトに感染して広がり重篤化しやすく、急速な世界的大流行(パンデミック)が引き起こされる危険性があります。

(※)遺伝子組換え技術によって作製されたタンパクを指す。大腸菌、酵母、昆虫、動物等の細胞に目的の遺伝子を組み込むことで人工的にタンパクを生産することが可能。インスリン、インターフェロン、抗体医薬等のリコンビナントタンパクが、既に医薬品として承認されている。



## ■株式会社 UMN ファーマについて

株式会社 UMN ファーマは、Unmet Medical Needs（未充足医療ニーズ）<sup>(※)</sup>を満たす薬剤を開発する創薬ベンチャーとして平成 16 年に設立しました。大学や企業等の創薬シーズの中から、医薬品になる確率の高いものを的確に選び出し、スピーディーに開発を進めています。現在、インフルエンザワクチン、肺炎治療薬を主なパイプラインとしています。

(※)Unmet Medical Needs とは、満足な治療法が存在しない治療領域において新規薬剤を待望する社会全体の期待を表す。

設立： 2004 年 4 月 20 日  
代表取締役社長： 金指 秀一  
医師、医学博士、日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医  
本社： 秋田県秋田市中通 3-1-9 ダイアビル秋田 901  
東京本社： 東京都渋谷区神南 1-15-8 兼仲ビルディング 4F  
TEL 03-5728-5420  
ホームページ： <http://umnpharma.com/index.html>

— 本件に関するお問い合わせ先 —  
株式会社 UMN ファーマ 取締役(事業開発部長)  
林 成浩  
電話：03-5728-5420  
E-mail：press@umnpharma.com